

# 副主任コラム3月号

副主任 澤井 良子

現在コロナウイルス感染症予防のため送迎時の玄関対応等にご協力いただきありがとうございます。保護者の方一人ひとりにお子さんの様子等、十分にお伝えすることができず申し訳ございません。

今年度も残すところ1カ月となりました。年長児にとっては最後の保育園生活であり、卒園という大きな行事が待っています。他の年齢の子ども達にとっては進級、うさぎ組にとっては異年齢児集団への仲間入りという大きな環境の変化が待っています。子ども達にとっても保護者の方にとっても、卒園・進級が不安とならないように丁寧に関わり、お伝えしていきたいと思っていますので、どんな事でも職員にお尋ねいただければと思います。よろしくお願い致します。

2月の子ども達の様子をお伝えしたいと思います。夕方の園庭でうさぎ組が遊んでる時の事です。フラフープ・ボールなど子ども達が好きな物を選んで持ってきては保育士と遊んでいました。そこでHくんは赤いボールを取りに行くのですが、他の子もそのボールが使いたくなりHくんの傍にいきます。他の子に「貸して」と言われることを察したHくんは「Aくんは縄跳び?」「Bちゃんも縄跳び?」と縄跳びを勧めます。けれど、AくんもBちゃんも首を振り『ボールがいい』と言い、困ったHくんは、「じゃあ、Hが1番で次にAくん、その次Bちゃんね」と順番にすることでなだめようとしますが納得してくれません。そこでそのやりとりを見ていた私はHくんに『先生もしたいな』と言うと「えー!先生もしたいの?」と驚き、少し考えてから「じゃあ、4人です?」と提案し4人でボール蹴りをする事になりました。自分がしようとしていたことを、順番に。そしてみんなで遊ぶことへと提案できたHくんの思いの変化や、友達のことを考えることができたことに、私は3歳でここまで人間関係・仲間意識が育っているんだと感じ驚きました。

そして年中児では、積み木遊びに夢中になっている子が多いのですが、たくさんの積み木(長方形ばかりです)を最初は本を見ながらまねて作っていました。色んな友達と作る中で、壊れてしまったり、わざと倒してみたりたくさんのトラブルも起きました。そのうち「人(人形)が欲しいな」という声や、高く積み上げていた遊びが横に広がり、街や家づくりへと発展していき「残しときたいで『こわさないでね』(プレート)をもっと用意して」と保育士に言う声も出てきました。積み木には対象年齢がなく、作るものが立体的に変化し、発展性や子ども達の創造性に合わせられるという点でも良いとされています。これから子ども同士の関わりや、どんなものを作っていくのかを見るのが楽しみでもあり、今は同年齢の子との関わりですが、異年齢だとうどう変化していくのかも見てみたいと思います。

コロナによりできないと思うことも、我慢を強いられることも増えました。けれど、子ども達にとっての成長に待ったはありません。先日受けた研修の中でもありましたが、【やれない選択よりも、やれるための選択】を子ども達に提供できるよう私たちは考えていかななくてはならないと思いました。感染予防に努めながらも1日1日を大切に保育をしていきたいと思っています。